

木の文化を支える森づくり活動「首里城古事の森」について～第2報～

九州森林管理局 沖縄森林管理署
一般職員 西田 卓矢
森林技術指導官 曲瀬川 淳一

1. 背景

沖縄では、首里城や赤瓦屋根の木造建築、琉球漆器等の多様で温もりのある木の文化が存在します。しかし近年では、コンクリート化が進み木の文化が衰退しています。そこで、平成20年に沖縄伝統の文化を育み木材利用を推進することの意義を県民に普及啓発することを目的に「首里城古事の森」が設定されました。今回は、平成20年から現在までの森づくり活動を通して見えてきた課題について報告します。

2. 取組の概要・経過

(1) 森づくり活動

平成20年に国頭村安波国有林35林班、平成24年に東村平良国有林1林班において「首里城古事の森」が設定され、森づくり活動を行っています。

また適切な管理を行っていくため、植栽木の害虫被害状況調査・成長量調査を実施しています。



写真－1 植樹作業

(2) 森林環境教育の実施

当署では古事の森活動を支援すると共に、児童に対して森林環境教育を実施し、森林の持つ公益的機能、林業の必要性・重要性のPRを行っています。

(3) アンケート調査

「首里城古事の森」について地元住民がどの程度、関心があるか知る

ために今年の9月に行われた安波・クイナダムまつりにおいてアンケート調査を行いました。

3. 実行結果

(1) 森づくり活動

平成20年11月30日にはイヌマキ、オキナワウラジログシの苗木280本の植樹を実施しました。さらに毎年、関係者や地元小学生による植樹及び育樹作業を実施しています。

(2) 森林環境教育の実施

地元の国頭村立安波・安田小学校及び東村立東小学校の児童に対し植樹作業、育樹作業を実施しており毎年約30名程度の児童が参加しています。また、紙芝居や樹名板設置等を実施し、森林の働きや樹木の名前の由来や特徴・生態などについて理解を深めています。



写真－2 森林環境教育

(3) アンケート調査

アンケート調査を約100人に行ったところ「首里城古事の森」を知っている人は100人中14名、という結果になりました。

4. 今後の方針

アンケート調査の結果から古事の森について関心を持っている人が非常に少ないことが分かりましたが、自然や森林に関心がある人は100人中84人いました。このことから広く周知することで古事の森についても関心を持つ人が増えるのではないかと考えます。

そのため、今後は、引き続き植栽木の被害状況調査を行いつつ、関係機関と協力しながらより活発にPR活動を行っていきたいと考えています。